



国際石油開発帝石株式会社

2012年3月期決算説明会

2012年(平成24年)5月11日



- 事業活動報告
- INPEX中長期ビジョンの策定について
- 今後の見通し
- 2012年3月期 決算説明
- 2013年3月期 業績予想

当プレゼンテーションは、当社の計画と見通しを反映した、将来予想に関する記述に該当する情報を含んでおります。かかる将来予想に関する情報は、現在入手可能な情報に鑑みてなされた当社の仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性およびその他の要因が内在しております。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する情報に明示的または黙示的に示される当社の将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらす可能性があります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因には下記のものが含まれますが、これらに限られるものではありません。

- 原油および天然ガスの価格変動及び需要の変化
- 為替レートの変動
- 探鉱・開発・生産に関連するコストまたはその他の支出の変化

当プレゼンテーションに掲載される情報(将来予想に関する情報を含む)を、その掲載日後において、更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

事業活動報告

代表取締役社長
北村俊昭

2012年3月期 事業活動ハイライト(1/2)



■ 確認埋蔵量	前期比86%増 24.3億BOE
■ ネット生産量	日量42.6万BOE
■ HSE KPI*	LTIF 0.62、TRIR 1.76 共に当社年度目標を達成見込み
■ 2012年3月期決算	連結売上高 1兆1,867億円(前期比25.8%増) 純利益1,940億円(前期比50.7%増)
■ イクシス	2012年1月、最終投資決定(FID)を発表 2016年末までの生産開始に向け、現在開発作業中
■ アバディ	2011年7月、Shellへ権益30%の譲渡を決定 本年下半期のFEED開始に向け準備作業中

*HSE KPI : HSE Key Performance Indicator。2012年3月期の暫定値。

LTIF:Lost time injury frequency (休業災害頻度。百万労働時間当たりの死亡災害と休業災害件数の災害発生頻度)

TRIR:Total recordable injury rate (労働災害発生率。百万労働時間当たりの医療処置を要する労働災害以上(死亡+休業+不休+医療)の災害発生頻度)

- カナダ・シェールガス開発生産プロジェクト、プレリユードFLNGプロジェクト(豪州)への参入
- コニストンユニット(西豪州沖合)の開発移行決定、キタン油田(チモール海)の原油生産開始、セブク鉱区ルビーガス田(インドネシア)の開発移行決定、探鉱プロジェクトの新規取得(マレーシア、インドネシア)
- ガスサプライチェーン構築に向けた進捗(直江津LNG受入基地の建設、富山ライン最終投資決定)
- 地熱開発に向けた取り組み

- 2012年1月、最終投資決定
- 主要EPC契約締結済
- 主要政府許認可取得:2012年3月、生産ライセンス取得済
- LNG全量840万トンの売買契約締結済
- 推定埋蔵量のうち約11.8億BOE*を確認埋蔵量へ格上げ
- ファイナンス: ECA・市中銀行との交渉を継続中(プロジェクトファイナンス)

* 当社権益比率76%ベース(右枠内記載のガス3社に対する権益譲渡前の権益比率)



生産量(予定):

- LNG年間840万トン
- LPG年間約160万トン
- コンデンセート日量約10万バレル(ピーク時)

2016年末までに生産開始予定

権益比率*: 当社(オペレーター)72.805%、TOTAL 24%、東京ガス1.575%、大阪ガス1.200%、東邦ガス0.420%

*当社から大阪ガス、東京ガス及び東邦ガス各社への一部権益譲渡は豪州政府当局による承認手続き中

2012

2013

2014

2015

2016

FID

沖合/陸上施設詳細設計、機器調達、建設、試運転

パイプライン製造作業、敷設作業

プラント敷地造成、ダーウィン湾内浚渫作業

生産井掘削

プロジェクトファイナンスの借入契約締結/借入期間

生産開始



FPSO(イメージ)



陸上液化プラント(イメージ)

アバディLNGプロジェクト

INPEX



- Shell子会社へ参加権益30%を譲渡
 - ✓ Shellからの技術的サポートの提供、出向受入れ
- 生産分与契約に基づき10%の参加権益をインドネシア政府の指定するインドネシア企業に譲渡する方向
- FEEDのコントラクター選定中。環境社会影響評価(AMDAL)の手続き中
- FEED開始時期：2012年後半を目途
- ガス田埋蔵量に応じた追加開発の検討を継続
 - ✓ 2013年第2四半期から2～3坑の評価井と1坑の試掘井掘削を予定

■ アバディガス田開発計画(POD-1)

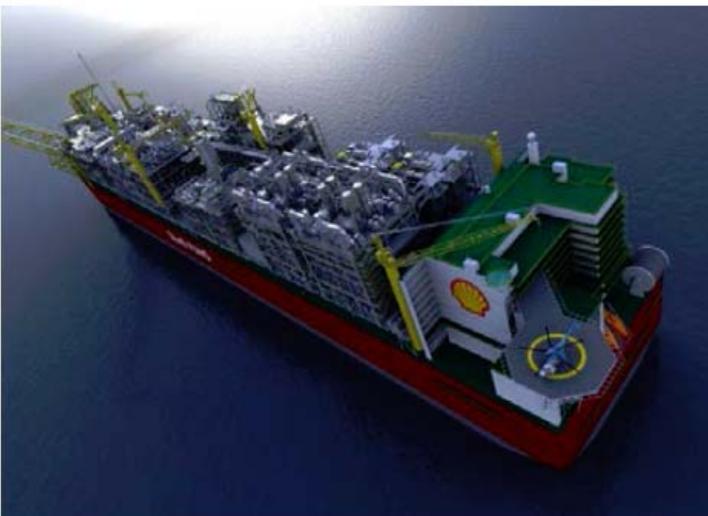
- ✓ 第一次開発
- ✓ 開発方式: Floating LNG
- ✓ 生産量: LNG年間250万トン
コンデンセート日量8,400バレル

■ 権益比率

- ✓ 当社(オペレーター)60%、Shell 30%、
PT EMP 10%



ホーンリバーにおける生産プラント



プレリユードFLNG(イメージ)

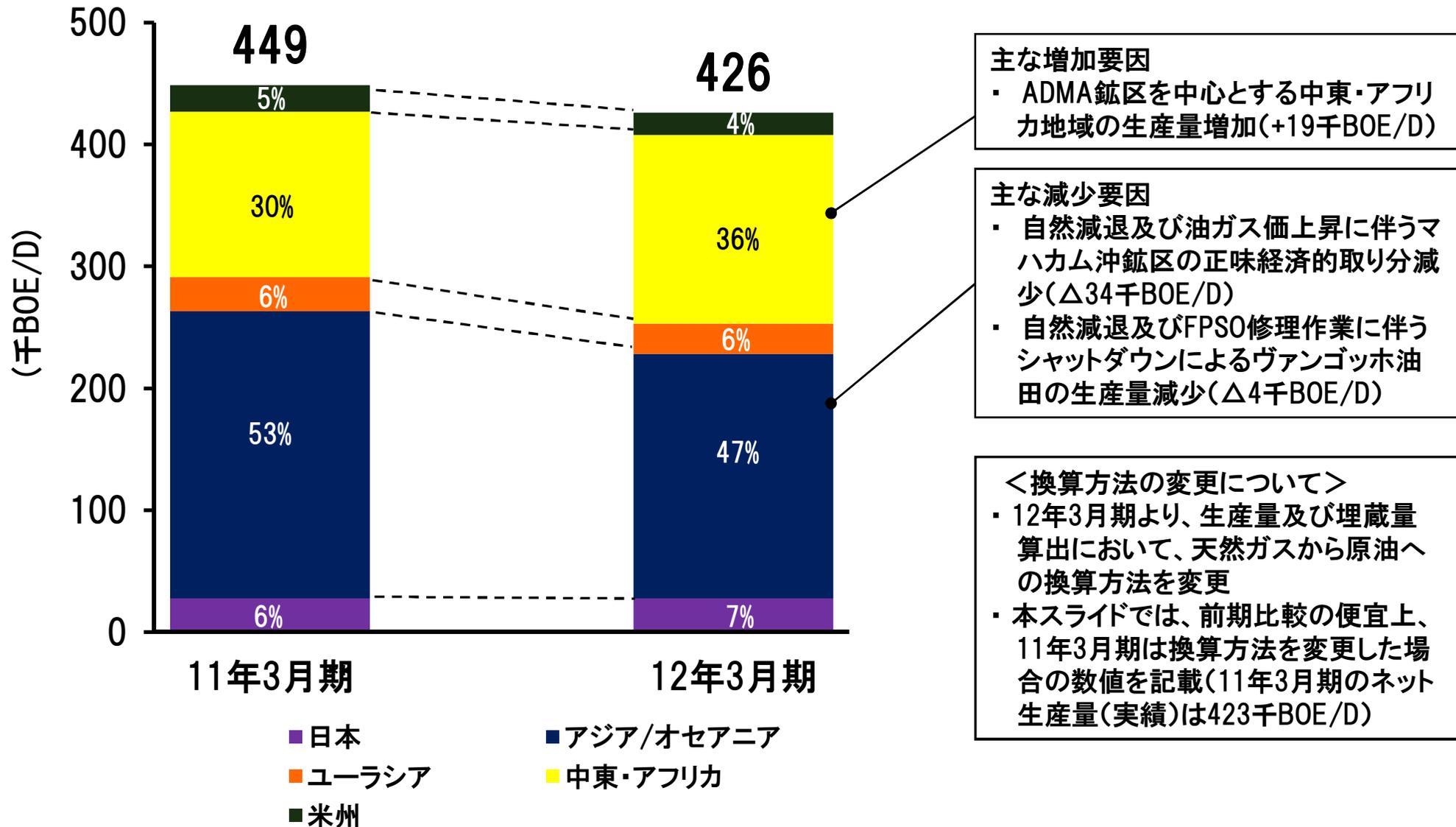
■ カナダ シェールガスプロジェクトへの参入

- 2011年11月、Nexenより権益40%を取得
- 今後、本格的な開発作業を進め、日量1,250 MMscf(原油換算で日量約20万バレル)規模の生産を目標

■ プレリユードFLNGプロジェクトへの参入

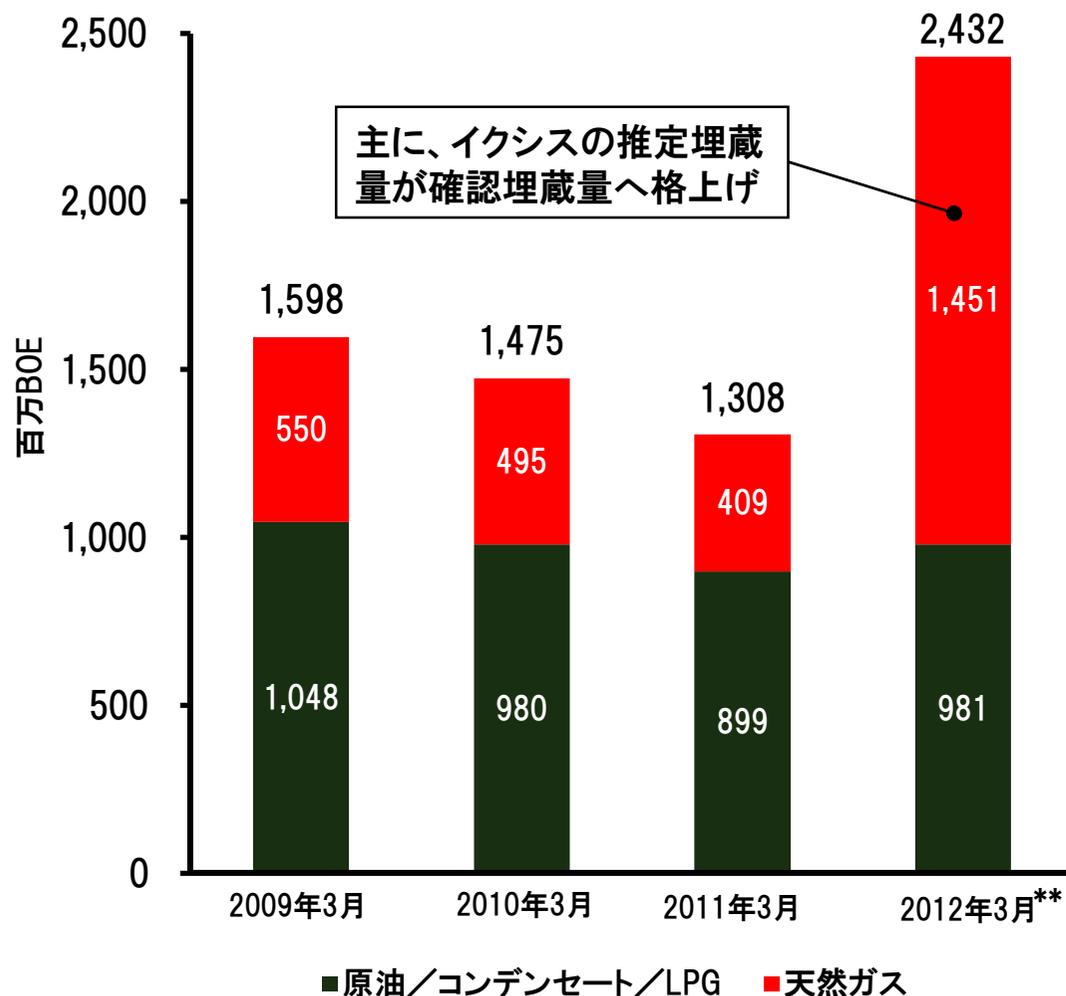
- 2012年3月、Shellより権益17.5%の譲渡に合意
- 2011年5月、最終投資決定
- 現在開発作業中。2007年初めのプレリユードガス田発見からおおよそ10年での生産開始を目標
- 生産量: 年間360万トンのLNG、年間約40万トン(ピーク時)のLPGおよび日量約3.6万バレル(ピーク時)のコンデンセート
- 埋蔵量: 天然ガス約3兆cf (プレリユードガス田およびコンチェルトガス田)

2012年3月期 ネット生産量*

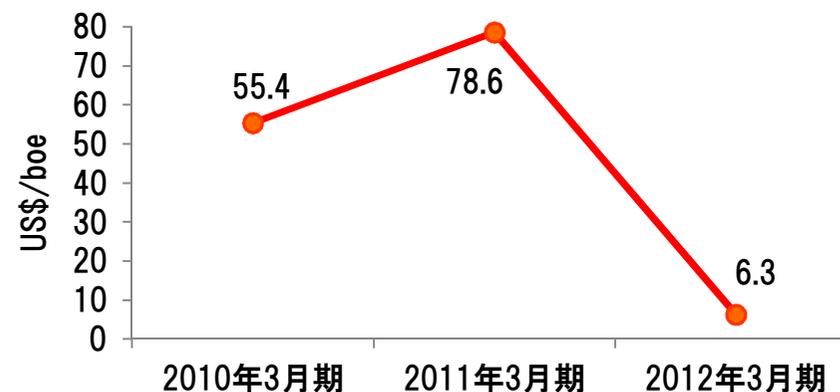


* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示しています。

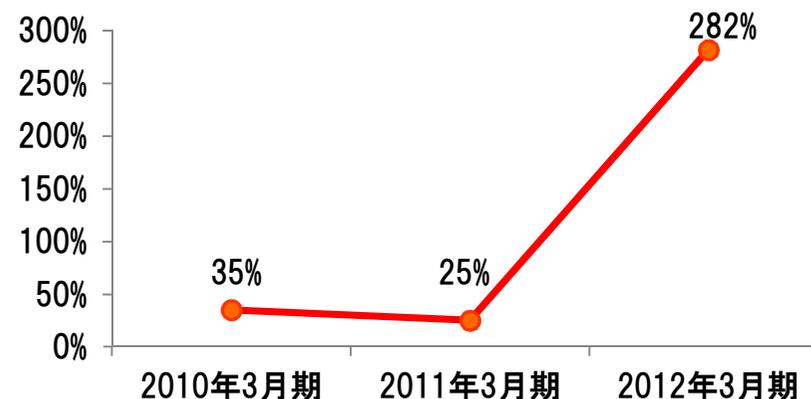
確認埋蔵量*の推移、及び関連指標



原油換算1バレル当たりの探鉱・開発コスト(3年平均)



リザーブリプレースメントレシオ(3年平均)



* 埋蔵量は、持分法適用会社を含む当社グループの主要なプロジェクトを対象とし、今後の開発投資が巨額であり、将来の業績への影響が大きいと考えられるプロジェクトについては、DeGolyer & MacNaughton社にて、その他については自社にて、評価・算定した値(暫定値)である。確認埋蔵量は、米国証券取引委員会(SEC)規則に従い評価・算定しています。

** 2012年3月期より天然ガスから原油への換算方法を変更しています。

INPEX中長期ビジョンの策定について

代表取締役社長
北村 俊昭

ビジョン策定の背景

- 2008年10月 旧国際石油開発と旧帝国石油の完全統合
 - 2009年7月 中長期的経営課題を策定、発表
 - 2012年1月 イクシス最終投資決定(FID)
- ⇒ イクシスFIDを契機に、中長期成長目標について確かな道筋を描く
- 天然ガス、再生可能エネルギーへのシフト、需要拡大
 - 石油・天然ガス開発企業のダイナミックな経営展開
 - 原油価格の高騰、資源ナショナリズムの台頭、非在来型資源の登場
- ⇒ エネルギー開発を取り巻く事業環境の変化へ対応



INPEX中長期ビジョン
～イクシスそして次の10年の成長に向けて～

3つの成長目標と今後5年間の重点的取り組み **INPEX**

1. 上流事業の持続的拡大→2020年代前半にネット生産量日量100万バレル

- イクシス、アバディの立ち上げ
- 探鉱投資の強化、拡充(5年間で総額3,000億円、その後10年間で1兆円超)
- 中核的地域や有望地域における探鉱・開発の大幅強化、非在来型資源への展開
- 積極的な資産買収の実施、企業M&Aの具体的検討

2. ガスサプライチェーンの強化→2020年代前半に国内ガス供給量25億m³

- 直江津LNG受入基地と富山ラインの完成
- マーケティング機能、輸送能力、需給調整機能の確保
- 供給セキュリティ対策強化
- LNG火力発電への関与のあり方を検討

3. 再生可能エネルギーへの取り組み強化→研究開発、事業化への取り組み

- 地熱発電の事業化推進
- CO₂再資源化技術などの研究開発促進

1. 人材の確保、育成と効率的な組織体制の整備

- 新規プロジェクト開発部門の創設
- 海外拠点の積極活用
- グローバル人材の育成
- 的確かつ効率的な業務遂行体制を確立

2. 成長のための投資と適切な株主還元

- イクシス生産開始までの5年間で3.5兆円、その後の10年間で6兆円超の投資資金確保（プロジェクトキャッシュフローと借入れによる）
- 自己資本比率50%以上、純有利子負債/純使用総資本20%以下の維持
- 上流専門企業トップクラスを意識した株主還元と効率的経営の実現

3. グローバル企業としての責任ある経営

- CSR経営の持続的強化
- コーポレート・ガバナンスの持続的強化に向けた具体策の実施（2013年3月期～）
- コンプライアンス、HSEの取り組みを持続的に強化
- ステークホルダーとの継続的コミュニケーションを通じて信頼関係と協働関係を構築

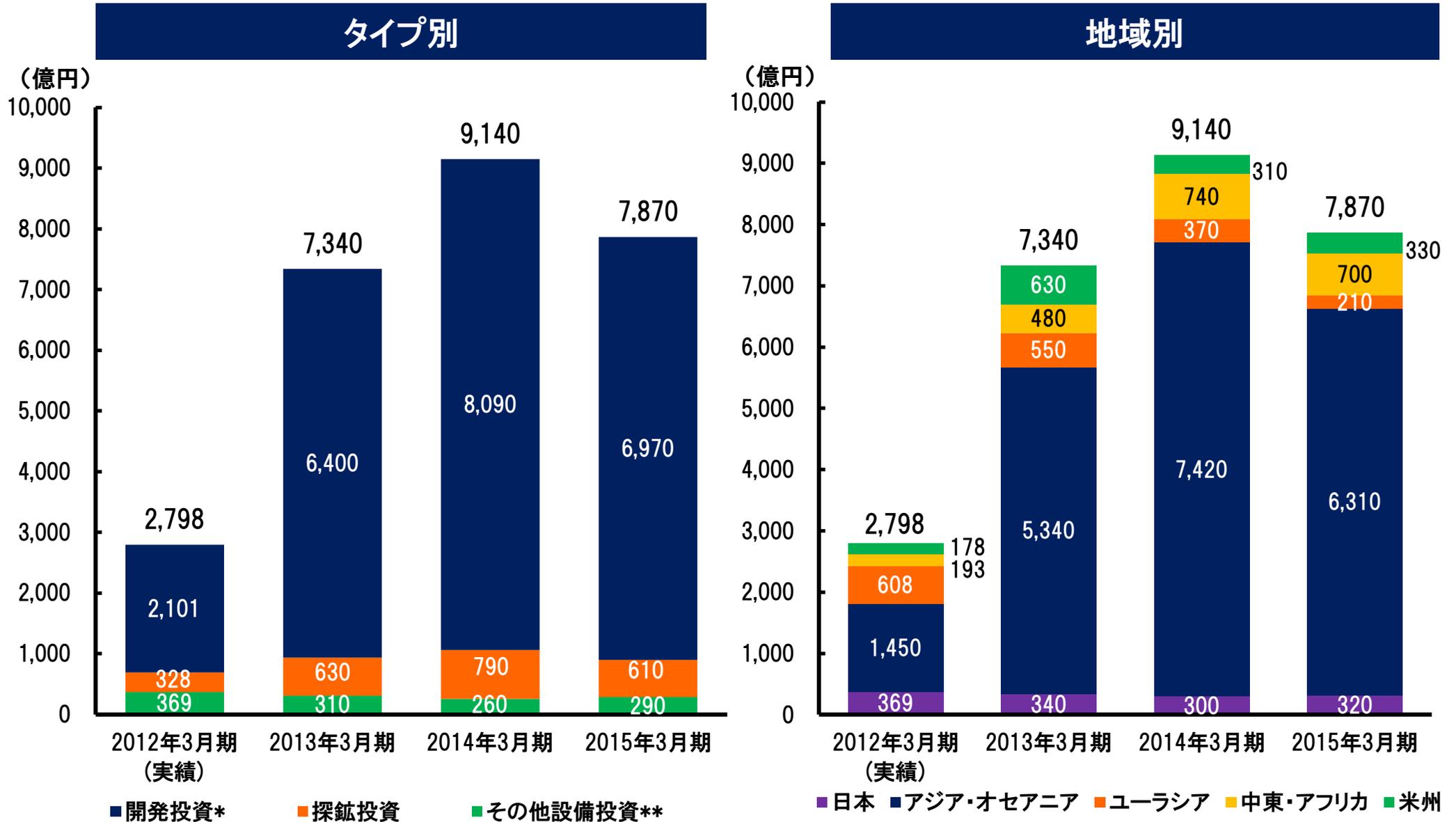


国際的競争力を有する上流専門企業のトップクラスへ
天然ガスをコアとする総合エネルギー企業へ

今後の見通し

代表取締役社長
北村俊昭

投資計画

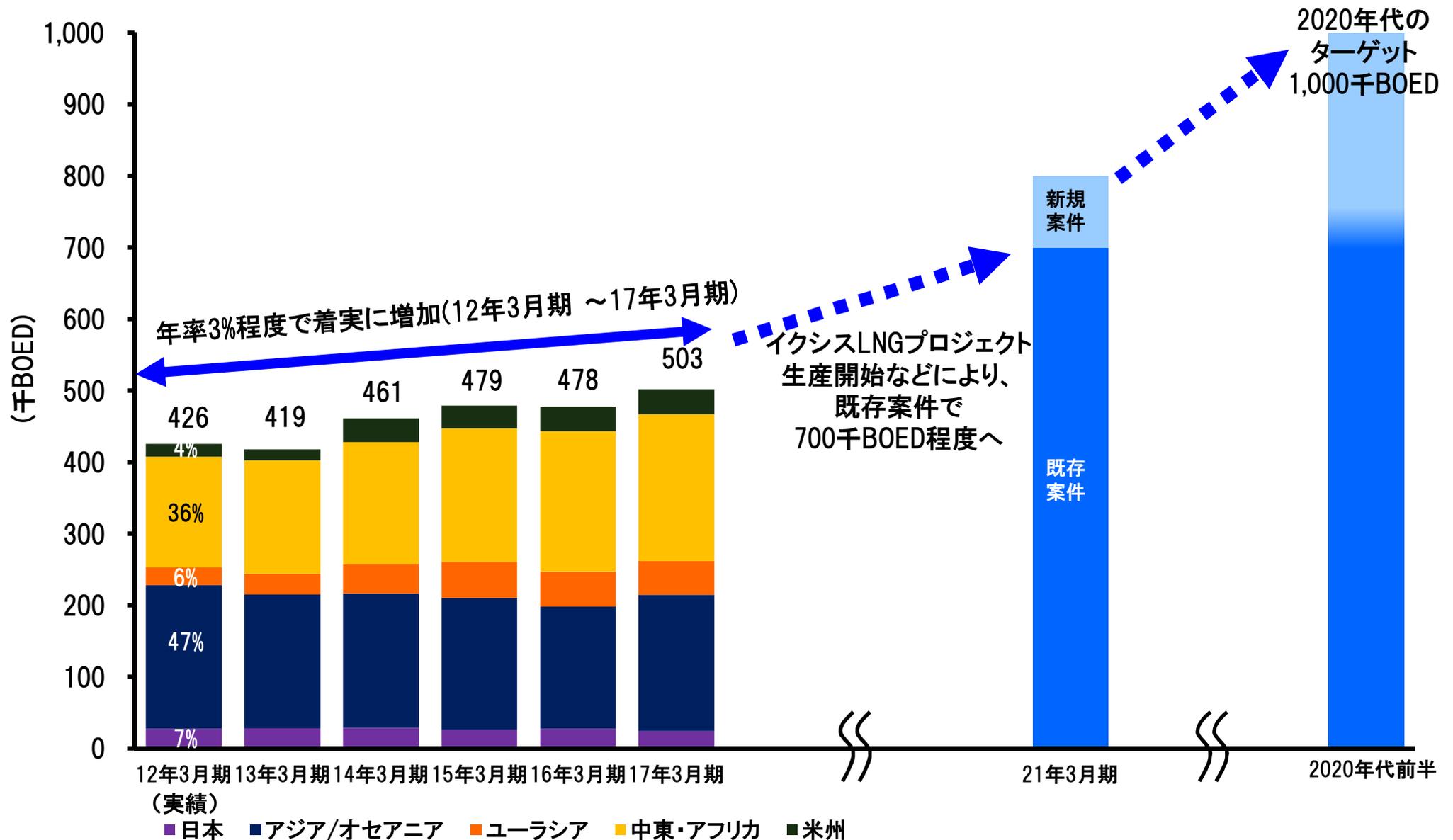


* 開発投資額にはイクシス下流事業を含む

** 主に直江津LNG受入基地、国内パイプライン関連施設等への投資

ネット生産量長期予測

INPEX



注) ネット生産量予測におけるブレント油価前提については、2013年3月期は\$100/bbl、2014年3月期以降は\$90/bblを使用している。

* 当社グループが締結している生産分与契約にかかる当社グループの原油及び天然ガスの生産量は、正味経済的取分に相当する数値を示す。

** 2012年3月期より天然ガスから原油への換算方法を変更しております。

2012年3月期 決算説明

取締役

常務執行役員

財務・経理本部長 村山昌博

2012年3月期 決算ハイライト



	11年3月期	12年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	9,430	11,867	2,436	25.8%
原油売上高	5,579	7,262	1,683	30.2%
天然ガス売上高(LPG含む)	3,562	4,290	728	20.4%
その他	289	314	25	8.7%
営業利益 (億円)	5,297	7,093	1,796	33.9%
経常利益 (億円)	5,085	7,670	2,584	50.8%
純利益 (億円)	1,286	1,940	653	50.7%
1株当たり純利益 (円)	40,832.40	53,137.93	12,305.53	30.1%

期中平均株式数(連結)2012年3月期 3,650,894株

期中平均油価(Brent) (\$/bbl)	87.24	114.18	26.94	30.9%
期中平均為替 (¥/\$)	85.72	79.07	6円65銭円高	7.8%円高

原油売上高

	11年3月期	12年3月期	増減	増減率
売上高 (億円)	5,579	7,262	1,683	30.2%

販売量 (千bbl)	76,651	80,738	4,086	5.3%
海外平均単価 (\$/bbl)	84.34	112.97	28.63	33.9%
国内平均単価 (¥/kl)	49,957	60,263	10,305	20.6%
平均為替 (¥/\$)	85.56	79.09	6.47円円高	7.6%円高

地域別販売量 (千bbl)	11年3月期	12年3月期	増減	増減率
日本	156 (25千kl)	138 (22千kl)	△18 (△3千kl)	△11.2%
アジア・オセアニア	18,004	15,355	△2,649	△14.7%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	9,056	9,107	51	0.6%
中東・アフリカ	48,396	56,084	7,689	15.9%
米州	1,040	53	△986	△94.9%
合計	76,651	80,738	4,086	5.3%

天然ガス売上高(LPG除く)



	11年3月期	12年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	3,346	4,047	700	20.9%
販売量(百万cf)	401,228	357,601	△43,627	△10.9%
海外生産分平均単価(\$/千cf)	9.10	14.12	5.02	55.2%
国内分平均単価(¥/m ³)	41.73	44.56	2.83	6.8%
平均為替(¥/\$)	85.68	79.15	6.53円円高	7.6%円高

地域別販売量(百万cf)	11年3月期	12年3月期	増減	増減率
日本	64,253 (1,722百万m ³ *)	65,602 (1,758百万m ³ *)	1,349 (36百万m ³ *)	2.1%
	買入量:492百万m ³ *	買入量:532百万m ³ *	39百万m ³ *	8.0%
アジア・オセアニア	306,641	264,617	△42,024	△13.7%
ユーラシア(欧州・NIS諸国)	-	-	-	-
中東・アフリカ	-	-	-	-
米州	30,334	27,382	△2,952	△9.7%
合計	401,228	357,601	△43,627	△10.9%

※ LPGの売上高は以下の通り。

*1m³当たり41.8605MJ

	11年3月期	12年3月期	増減	増減率
売上高(億円)	215	243	27	12.7%

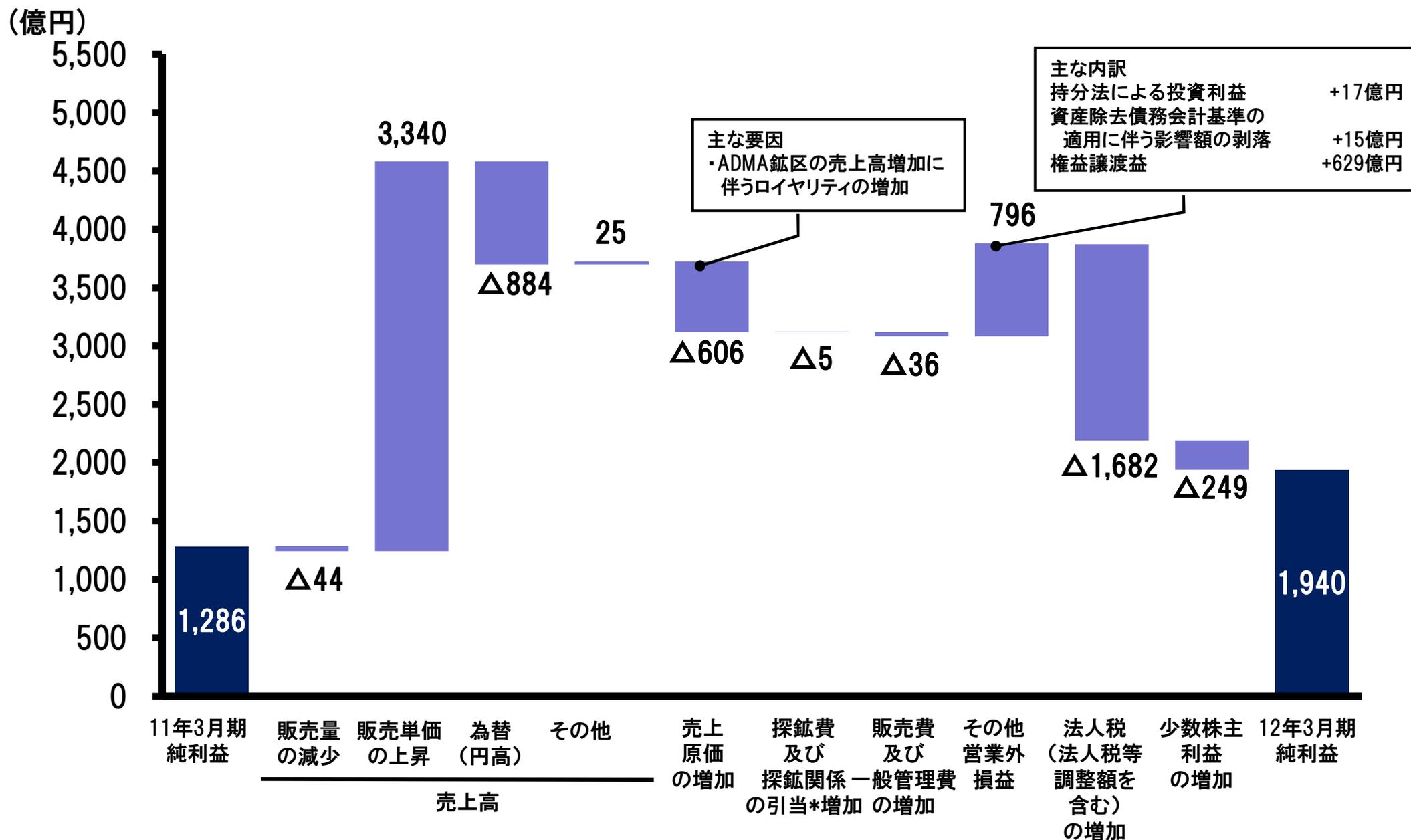
損益計算書

INPEX

(億円)	11年3月期	12年3月期	増減	増減率	
売上高	9,430	11,867	2,436	25.8%	販売量の減少 $\Delta 44$ 販売単価の上昇 $+3,340$ 為替(円高) $\Delta 884$ その他 25
売上原価	3,348	3,954	606	18.1%	
探鉱費	120	117	$\Delta 2$	$\Delta 2.1\%$	
販売費及び一般管理費	665	701	36	5.5%	
営業利益	5,297	7,093	1,796	33.9%	原油売上原価： $2,240$ (増減) $+287$ 天然ガス売上原価(注)： $1,495$ (増減) $+311$
営業外収益	311	1,020	709	227.4%	
営業外費用	523	444	$\Delta 79$	$\Delta 15.2\%$	主な要因 権益譲渡益(増減 $+629$)
経常利益	5,085	7,670	2,584	50.8%	
法人税等	3,670	5,431	1,760	48.0%	
法人税等調整額	16	$\Delta 62$	$\Delta 78$	$\Delta 485.4\%$	
少数株主利益	111	361	249	222.6%	
純利益	1,286	1,940	653	50.7%	

注) LPGを含む。

2012年3月期 純利益 増減要因分析



* 生産物回収勘定引当金繰入額及び探鉱事業引当金繰入額

貸借対照表

(億円)	11年3月期末	12年3月期末	増減	増減率
流動資産	4,929	9,087	4,157	84.3%
有形固定資産	3,798	3,836	38	1.0%
無形固定資産	2,491	2,333	△157	△6.3%
生産物回収勘定	5,343	5,683	339	6.4%
その他	11,210	10,730	△479	△4.3%
生産物回収勘定引当金	△968	△1,006	△37	3.9%
資産合計	26,803	30,663	3,860	14.4%
流動負債	2,547	3,678	1,131	44.4%
固定負債	3,282	3,843	560	17.1%
純資産	20,973	23,141	2,168	10.3%
(うち少数株主持分)	1,004	1,349	344	34.3%
負債・純資産合計	26,803	30,663	3,860	14.4%
1株当たり純資産 (円)	546,959	596,909	49,950	9.1%

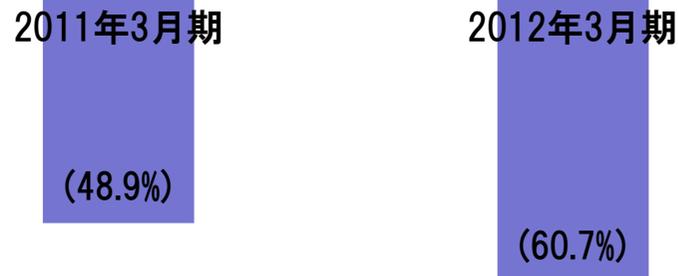
キャッシュフロー

(億円)	11年3月期	12年3月期	増減	増減率
税金等調整前当期純利益	5,085	7,670	2,584	50.8%
減価償却費	542	480	△62	△11.5%
生産物回収勘定(資本支出)の回収額	508	535	27	5.4%
生産物回収勘定(非資本支出)の増加額	△173	△210	△36	21.1%
法人税等の支払額	△3,495	△5,107	△1,612	46.1%
その他	273	△161	△434	△159.0%
営業活動によるキャッシュフロー	2,740	3,206	465	17.0%
有形固定資産の取得による支出	△842	△683	159	△18.9%
有価証券・投資有価証券の取得による支出・売却による収入(ネット)	△6,104	△853	5,250	△86.0%
生産物回収勘定(資本支出)の支出	△778	△829	△50	6.5%
その他	△720	△442	277	△38.5%
投資活動によるキャッシュフロー	△8,445	△2,808	5,636	△66.7%
財務活動によるキャッシュフロー	5,480	292	△5,187	△94.7%
現金及び現金同等物の期末残高	1,820	2,492	672	36.9%

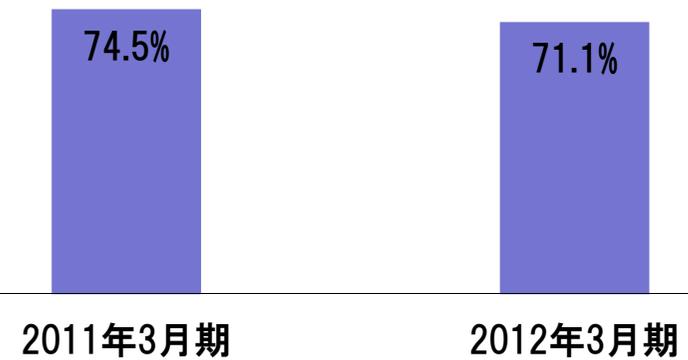
財務指標

INPEX

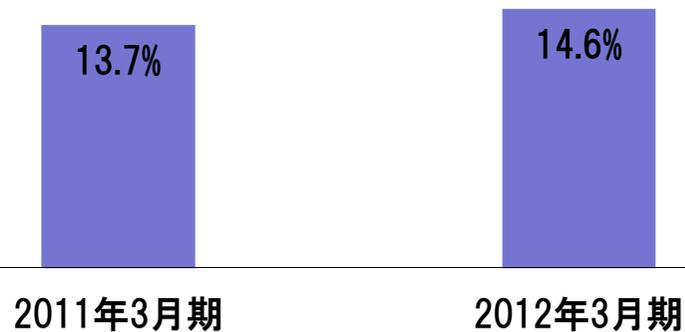
純有利子負債／使用総資本(ネット)*



自己資本比率**



D/Eレシオ***



* 純有利子負債／使用総資本(ネット) = (有利子負債 - 現金及び預金 - 国債・地方債・社債等(時価のあるもの) - MMF・譲渡性預金) / (純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金 - 国債・地方債・社債等(時価のあるもの) - MMF・譲渡性預金)

** 自己資本比率 = (純資産 - 少数株主持分) / 総資産

*** D/Eレシオ = 有利子負債残高 / (純資産 - 少数株主持分)

2013年3月期 業績予想

取締役

常務執行役員

財務・経理本部長 村山昌博

2013年3月期 連結業績予想

前提	上期	下期	通期
Brent 油価(\$/bbl)	100.0	100.0	100.0
為替レート(円/US\$)	80.0	80.0	80.0

通期	2012年3月期(実績)	2013年3月期(予想)	増減	増減率
売上高 (億円)	11,867	10,580	△1,287	△10.8%
営業利益 (億円)	7,093	5,710	△1,383	△19.5%
経常利益 (億円)	7,670	5,930	△1,740	△22.7%
純利益 (億円)	1,940	1,640	△300	△15.5%

第2四半期累計

売上高 (億円)	5,731	5,350	△381	△6.7%
営業利益 (億円)	3,280	2,810	△470	△14.3%
経常利益 (億円)	3,324	2,790	△534	△16.1%
純利益 (億円)	743	680	△63	△8.6%

1株当たり配当金 (円)	第2四半期末	3,000	3,500
	期末	4,000	3,500
	年間	7,000	7,000

2013年3月期 販売量・投資額(予想)



		2012年3月期(実績)	2013年3月期(予想)	増減	増減率
販売量	原油 (千バレル) ¹	80,738	85,914	5,176	6.4%
	天然ガス (百万cf) ²	357,601	323,535	△34,066	△9.5%
	うち海外分	291,999	256,571	△35,428	△12.1%
	うち国内分	65,602 (1,758百万m ³)	66,964 (1,794百万m ³)	1,362 (36百万m ³)	2.1%
	LPG (千バレル) ³	3,436	3,311	△125	△3.6%

		2012年3月期(実績)	2013年3月期(予想)	増減	増減率
開発投資額 ⁴ (億円)		2,101	6,400	4,299	204.6%
その他設備投資額 (億円)		369	310	△59	△16.0%
探鉱投資額 (億円)		328	630	302	92.1%
探鉱費および 探鉱関連引当額 ⁵ (億円)	探鉱費 117	270	探鉱費 334	319	118.1%
	探鉱関連引当額 153		探鉱関連引当額 255		
うち少数持分負担額 ⁶ (億円)		111	281	170	153.2%

- 注) 1 国内原油および石油製品販売量の換算係数として1kl=6.29バレルを使用
 2 国内天然ガス販売量の換算係数として1m³=37.32cfを使用
 3 国内LPG販売量の換算係数として1トン=10.5バレルを使用
 4 開発投資額にはイクシス下流事業を含む
 5 損益計算書の生産物回収勘定引当金繰入額+探鉱事業引当金繰入額
 6 少数株主による増資見合い分等

原油価格・為替レートのセンシティブリティ **INPEX**

■ 油価・為替変動の2013年3月期当期純利益に与える影響額(試算)

油価1ドル 上昇(下落)した場合	+18億円(△18億円)
為替(円/US\$)1円 円安(円高)になった場合	+22億円(△22億円)

(注) 原油価格(Brent)を1ドル変動させた場合、為替を1円変動させた場合の2013年3月期の当期純利益に対する影響額をそれぞれ試算したものです。

影響額は、生産量、投資額、コスト回収額などの変動により変わる可能性があり、また、油価及び為替の水準により、常に同じ影響額になるとは限らない点にご留意ください。